まんが時評

くらさんの目を通して見たちょっと気になる
ニュースにまんがを添えました　倉林　順一

科学だけが進歩すればいいってものではない！

ノーベル賞受賞連絡の瞬間

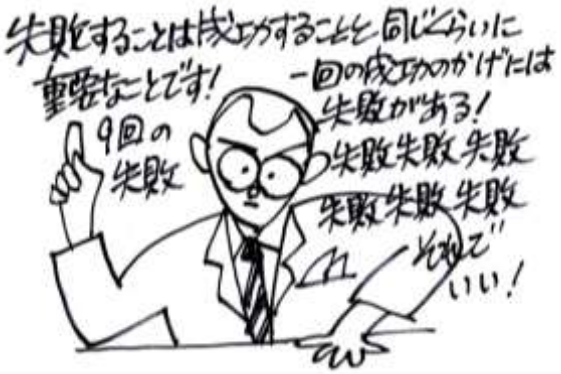
京都大学の山中伸弥教授がｉｐｓ細胞（人工多能性幹細胞）の研究でノーベル医学・生理学賞を受賞しました。本人は「学生、仲間、家族に感謝します」といたって謙虚に語っているけれど、研究の意味の重大さは世界中が認めています。スエーデンからの連絡を山中教授は自宅で洗濯機を修理しようとしている時に受けたとのこと。へえーっ！

ｉＰＳ細胞

受賞の理由となったｉＰＳ細胞とは身体のあらゆる組織や細胞に変化するもので万能細胞とも呼ばれます。この研究によって、失われた人の臓器、骨などが自分自身の組織から再生されるという夢のような話が現実味を帯びてきたわけです。移殖治療の最大の障害である拒絶反応の心配もなくなります。治療法がない難病に苦しむ人たちにとって山中教授はまさに救世主。科学の進歩はすごい。でもｉＰＳ細胞にも課題はあるとのこと。実験の中で細胞が「ガン化」するマウスが現れたそうです。山中教授たちには実用化にむけてさまざまな壁を乗り越えてほしい。

科学の進歩と命

科学の進歩で生活は日々快適になっています。医学の進歩で人の寿命はのびる一方。江戸時代から明治時代までを通じて日本の平均寿命が３０歳程度だったというから、私たちがどれだけ科学の進歩の恩恵にあずかっているかが分かります。ところが、科学がこれだけ進歩してきたというのに人間の心はまだまだ怪しい。

人の心も進歩しなければ！

山中教授の受賞のニュースとほとんど同時にｉＰＳ細胞を使った手術を行ったというウソの論文を書いた変な人のニュースが流れました。人々のより幸福な生活を目指して研究している科学者にまじって何か邪悪なたくらみを胸に秘めている人物もいることが明らかになって悲しい。ｉＰＳ細胞研究も今後、どのような方向に発展するのか心配な点もあります。科学がいくら進歩しても人の心が進歩しなければ本当の幸福は実現しないのではないでしょうか。中山教授が講演会で語っているように、若い人たちがたくさんの失敗をすることを許されながら心を豊かに育てることができる環境が大切だと思います。